

ケニアレンジャーが密猟者と死の戦い

IFAW（国際動物福祉基金）記者発表

(Nairobi, Kenya – 2007年5月23日) – 3人の野生生物レンジャーと4人の密猟者がこの週末、夜が明ける前にタナ川地区で銃撃され殺された。KWS（Kenya Wildlife Service）によると密猟団はツァボイースト国立公園への路上にいて、止まるように指示したところ銃を向けた。レンジャーは4人の密猟者を撃ち倒し銃撃戦が起きた。その結果3人のレンジャーを失った。1990年から仕事に亡くなったKWSのレンジャーはこれで23人となった。

「我々のレンジャーは人間の命という最も重い代償を支払った。しかし彼らの死は無駄にはしない。我々は用心深く、密猟者を撲滅しケニア野生生物遺産を守る。」と密猟対策チームの責任者 Dickson Lesimirdana は述べた。

ツァボはアフリカで最大の国立公園であり、重要なゾウの個体数を持つところとして世界中に知られている。そのため密猟者の終着地ともいわれる。IFAWの東アフリカ地区担当の James Isiche は、おもにゾウの個体数回復プログラムに支援しているが、「この悲劇は頻発する国際的象牙違法取引の影響である。毎年2万頭が殺され、脅威は人間とゾウと両方にあるのが現実だ。ゾウ生息地の専門家たちはこの挑戦にしっかり取り組む」と述べた。

皮肉なことにこの死闘は KWS とケニア野生生物観光局 がナイロビでアフリカゾウ協議ワークショップを開いていた時に起こった。参加者は6月3日からオランダ、ハーグで開催される CITES を前に 作戦を練っていた。

ケニアとマリは全ての象牙に関して20年間の取引一時停止を課す提案を出していて、昨今10カ国のアフリカゾウ生息国に支持されている。この密猟者との死闘は提案に対しより影響力を与える。多くのゾウ生息国の取締り機関が全力を挙げてもこのような密猟は防げないとする人もいる。

「象牙取引はゾウが CITES で完全に保護されなければ人間の間で暴挙となるだろう。」と IFAW ゾウプログラムの責任者であり KWS の代表であるミッシェルワミチ氏は言う。「全ての象牙取引禁止がたった一つの、ゾウと人間を守る方法だ」と付け加えた。

26トン（29ト）の象牙が2005年8月から2006年8月までに押収され、これは1989年に象牙取引が禁止になってからまれに見る高い年間押収率である。取締り機関はほぼ90パーセントの密輸が管理をすり抜け発覚されていないと見積もっている。